

第45期 中間報告書

自 平成24年2月1日 至 平成24年7月31日

Shape your future

ITエンジニアリングで未来をつくる

経営理念

ITエキスパート集団として成長を続け、
顧客・社会に貢献します

Shape your future

ITエンジニアリングで未来をつくる

CONTENTS

2 株主の皆様へ

3 トピックス

5 クローズアップ・シーイーシー

7 財務ハイライト（連結）

8 事業の概況

連結財務状況
9 第2四半期連結貸借対照表の概要
第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要

10 会社の概要／株式の状況

この冊子においては、将来の見通しに関する記述がさまざまな表現でなされています。その見通しは社会の変化や不確実性に左右され、実際の結果が異なることも考えられます。これらの将来に関する記述に過度に依存なされないようお願いいたします。

平素は、格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

さて、このたび、第45期第2四半期連結累計期間（平成24年2月1日から平成24年7月31日まで）の決算が確定いたしましたので、ここにご報告申しあげます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災後の復興需要やエコカー補助金などの政策効果により緩やかながら回復傾向を示しましたが、欧州債務問題を中心とした世界経済の減速、長期化する円高およびデフレ等の影響を受け、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

情報サービス産業を取り巻く環境は、クラウドビジネス等新規事業分野の拡大や国内景気の改善傾向を背景にIT需要が増加した反面、顧客のシステム運用に対するコストダウン要求もさらに強くなり、業界全体が活性化するまでには至っておりません。

このような情勢下、当社グループは当期を基盤整備年と位置付け、構造改革期間を延長し、加速度的に変化する顧客ニーズへの対応と、より高品質なサービス実現を目指し、さまざまな施策に取り組んでまいりました。

まず、グループ全体の事業構成を再編し、安定的経営基盤の構築に着手いたしました。具体的には、コンテンツビジネスを担当する「シーイーシークロスメディア(株)」、情報セキュリティ製品の販売・導入支援サービスを担当する「(株)イーセクター」、システム構築・導入・保守・運用サービスを担当する「(株)シーイーシーカスタムサービス」を設立するなど、グループ各社の収益構造を明確にいたしました。

ソリューション事業におきましては、認証印刷ソリューション「SmartSESAME® SecurePrint!」シリーズにて、国内初となるシンクライアント環境でのマルチベンダー認証印刷を実現させるなど、独自の新機能を追加いたしました。また、クラウド事業におきましては、高品質なデータセンターと大容量の回線を活用し、業務効率化を促進する

オンラインストレージサービス「Webhard™」の提供を開始いたしました。さらに、スマートフォンアプリの検証事業におきましては、中国現地企業と業務提携を行い、中国市場での事業拡大を推進するなど、自社製品の競争力強化に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、主要顧客である製造業における内製化の進行に加え、ソリューション製品の販売が伸び悩んだことなどから、売上高は195億8百万円（前年同期比5.5%減）となったものの、構造改革の推進および不採算事業の鎮静化によって、営業利益は7億7百万円（前年同期比99.7%増）、経常利益は6億7千8百万円（前年同期比67.4%増）、四半期純利益は5億1千1百万円（前年同期は2億9千5百万円の損失）となりました。

なお、中間配当金につきましては、株主の皆様への安定的な配当の継続を考慮いたしまして、1株につき10円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申しあげます。



代表取締役会長

岩崎 宏達



代表取締役社長

柏木 茂

TOPICS

1

シーイーシーの中国子会社、中国企業2社とスマートフォンのアプリ検証で業務提携。中国向けの検証サービス事業を本格稼働

2012年7月、シーイーシーの中国子会社であるシーイーシー（杭州）科技有限公司（シーイーシー杭州）は、中国電信集団系統集成有限責任公司山東分公司（中国電信系統集成山東分公司）および杭州東忠科技有限公司（東忠）と、スマートフォンアプリの検証事業で業務提携しました。

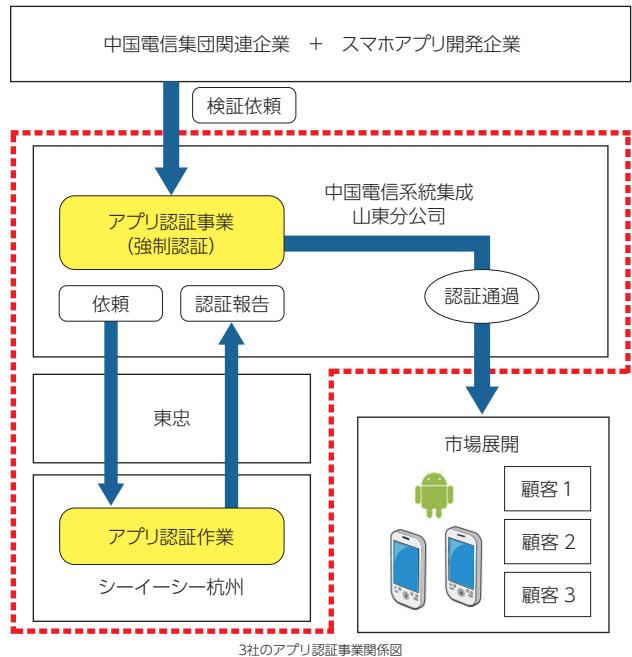


3社による業務提携調印式

このたびの提携は、中国電信系統集成山東分公司をスマートフォンアプリの配信母体として、シーイーシー杭州が東忠と運営する認証機関の品質検証を通過したソフトウェアのみ、中国市場へ投入しようというものです。今回の関係を構築したことにより、中国電信系統集成山東分公司は、第三者検証サービスPROVEQ（プロベック）の経験と技術力を活かして、アプリケーションの受け入れ検査効率化と、市場に投入するアプリケーションの品質向上を図ることができます。また、シーイーシー杭州は、中国電信系統集成山東分公司が第三者検証サービスを導入した実績をもとに、同社の他地域企業への横展開を図るとともに、

検証サービス事業の中国展開をさらに加速・推進することができます。

※シーイーシー杭州は、2010年にシーイーシーと東忠が合併で設立した中国現地法人です。シーイーシーが日本国内で業界をリードするスマートフォンや携帯の検証ノウハウとツール群を活用し、中国国内にてPROVEQのブランド名で第三者検証サービス事業を推進しています。



3社のアプリ認証事業関係図

※中国電信集団系統集成有限責任公司山東分公司は、中国電信集団（売上高3兆円規模の大手通信企業グループ）傘下のOne-StopトータルソリューションIT総合サービスプロバイダの中国電信集団系統集成公司の子会社です。

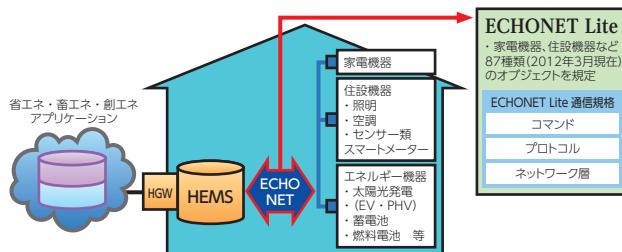
※杭州東忠科技有限公司は、株式会社東忠の中国市場統括会社であり、日本向けのオフショア開発企業として、ソフトウェアの開発事業を展開しています。

スマートハウスの標準インターフェース「ECHONET Lite (エコーネット ライト)」の認証サービス開始

2012年4月、PROVEQサービス事業部は、国内初のエコーネットコンソーシアム公認となる「ECHONET Lite (エコーネットライト)」規格適合性認証サービスを開始しました。

2011年の原発事故以降、国内の電力事情悪化や電気料金の値上げが社会問題となっており、ITを活用して省エネを実現するスマートハウス市場は、今後さまざまな製品やサービスの登場が期待されています。ECHONET LiteはHEMS (Home Energy Management System) と家庭内機器、HEMSとスマートメーター等をつなぐ標準インターフェースであり、スマートハウス構築の要となる通信規格です。2012年2月には、経済産業省がスマートハウスに関わる国内標準インターフェースとして推奨することを発表しており、認証サービスの需要も拡大が予想されます。

現在、PROVEQサービス事業部は、先の認証サービス提供に加えて、HEMSと家電機器との接続性や各種センサーとスマートメーターとの接続性を検証するサービスなど、携帯電話分野に次ぐ事業の柱とすべくスマートハウス分野向け検証サービスの開発を進めています。



ECHONET Lite 規格関係図

オンラインストレージ「Webhard™ (ウェブハード)」の活用にもスマホ専用アプリ提供

2012年5月、法人向けオンラインストレージサービス「Webhard」に対応した、スマートフォン専用アプリケーション「Webhard Japan for Android (ウェブハード ジャパン フォア アンドロイド)」の提供を開始しました。Webhardは、インターネット(クラウド)上にあるストレージ(記憶領域)を利用して、会社やプロジェクトの共同作業を支援するサービスです。今回は、Webhardをより快適に活用できる環境を構築すべく、Androidスマートフォン向けに専用アプリケーションを開発しました。アプリケーションを利用することで、出張先や外出先でのファイル受渡しや資料の閲覧※注1、お客様

先での急なプレゼンテーション※注2などを実施することが可能になり、スマートフォンの活用範囲が大きく広がります。



スマートフォン メニュー画面

【主な特長】

- ① 撮った写真や動画を素早くアップロード
- ② 自動ログイン機能で素早くアクセス
- ③ スマートフォンアプリで編集・加工
- ④ GUESTログインもモバイルアプリケーションから可能
- ⑤ URL付きメールでアップロードを通知

※注1.ファイル閲覧には、別途閲覧用のAndroidアプリケーションが必要です。

※注2.プレゼンテーションには、別途プレゼンテーション用のAndroidアプリケーションが必要です。

※「Webhard™」はLG Uplust Corp.の商標です。

今、認証印刷ソリューション 「SecurePrint！」が熱い！ SecurePrint! Suite

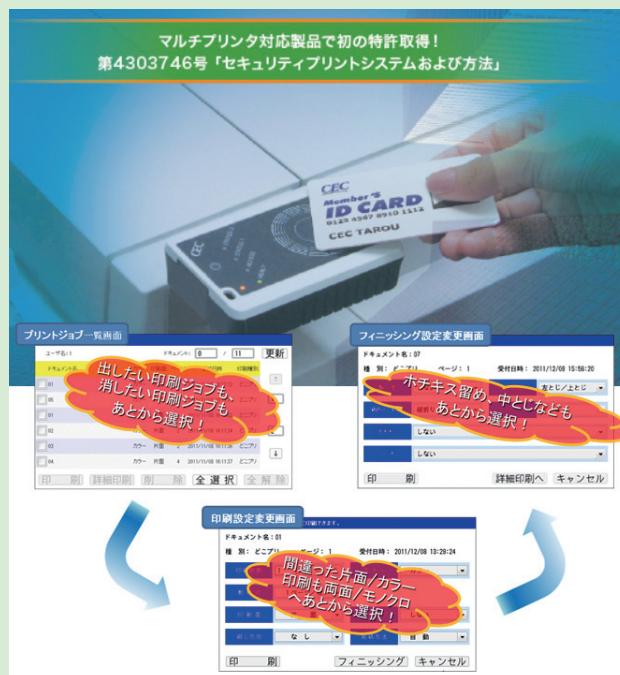
2012年2月、IDカードを利用した認証印刷ソリューション「SmartSESAME® SecurePrint! Suite（スマートセサミ セキュアプリント スイート）」の新バージョンを公開しました。今回のバージョンアップによりSecurePrint!は、キヤノン、コニカミノルタ、富士ゼロックス、リコーが提供するオフィス向け複合機の認証機能との連携を実現し、マルチベンダー対応の認証印刷製品では、国内初の主要プリンタメーカー4社への対応が完了しました。続いて5月には、Citrix社が提供するシンクライアント環境での認証印刷にも対応、SecurePrint!が導入されたオフィスでは、さまざまなクライアントやプリンタに対応したセキュリティ印刷環境を実現できるようになりました。

今回は、上期矢継ぎ早に機能拡張を発表したSecurePrint!の事業を担当するSmartSESAMEソリューション部の嘉藤謙介部長にお話を伺いました。

オフィスのIT基盤を支える存在を目指す！

SecurePrint!の特長と開発のコンセプトを教えてください。

「1枚のICカードで、オフィスのセキュリティをガードする」をコンセプトに、SmartSESAME(スマートセサミ)の事業ブランドで2002年からビジネスを開始し、もう10年になります。プリンタ向けのセキュリティソリューションを発表したのは2006年で、この時はキヤノン製



SecurePrint! サービス概要図

複合機専用のアプリケーションでした。2008年に現在のSecurePrint!の最大の特長である、メーカーや機種に依存せずに、どのプリンタの認証印刷にも対応できる製品を発表しました。

プリンタ向けのセキュリティに着目したのはどうしてなのか？

2000年以降、企業にはコンプライアンス(法令遵守)に加えて、社会的責任にも配慮したコーポレート・ガバナンス

スが求められています。しかしながら、未だ情報漏えいのセキュリティ事故は後を絶ちません。NPO日本ネットワークセキュリティ協会 (JNSA) が毎年発表している「情報セキュリティインシデントに関する調査報告書」によると、2011年の速報データでは情報漏えい経路で最も多いのが紙



嘉藤謙介部長

媒体であり、なんと 70.5% を占めています。情報の電子化が進んだ現在でも、最も注意を払わなければならないのが印刷物に関するセキュリティなのです。

情報漏えいの70%が紙媒体とは驚きました。

オフィスを眺めてみると、パソコンが急速に普及し一人1台が当たり前のようになっていますが、相変わらず資料は紙で配布されています。昔に比べて紙に印刷する機会は減りましたが、その分オフィスで取り扱う情報量が飛躍的に増え、使用されている紙の量はあまり変わっていないように思えます。

誰もが簡単に資料を印刷することができるため、プリンタの周りはずっと資料を取りにくる人たちが混雑しています。こうなると出力した資料の紛れ込み、取り忘れ、のぞき見などが発生するリスクも大きくなってしまいます。

SecurePrint!を導入すると、オフィスはどう変わりますか？

まず、印刷物の紛失が無くなります。自席のパソコンから印刷命令を実行しても、プリンタのカードリーダーで認証されなければ出力されませんから、見失うことがありま

せん。また、余分な印刷物が減り、その分印刷コストを削減できます。誤って印刷を実行しても認証前なら取り消すことができますし、印刷したことを忘れても、一定時間が経過すると印刷はキャンセルされます。そして、パソコンのプリンタ設定の手間が無くなります。SecurePrint!をインストールすると、プリンタの機種変更やオフィス内の配置換えで設定が変わっても、接続先のプリンタを変更する必要がありません。

安全性と利便性を両立させているわけですね。

最後にこれからのビジネス展望について教えてください。

この先、プリンタの重要性はますます増し、オフィスのITプラットフォームの中心に複合機プリンタがあり、クラウドコンピューティングやスマートデバイスを活用して企業内の情報を蓄積、保存、管理する存在になってくると考えます。われわれは、利用者がより安全に便利にプリンタを使えるよう、ベンダーの立場でさまざまなソリューションを提供し、オフィスのIT基盤を支える存在になりたいと考えています。

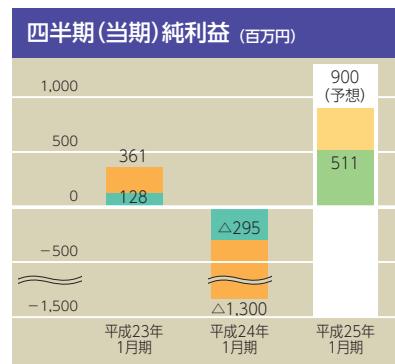
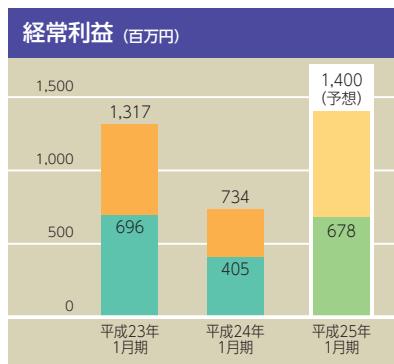
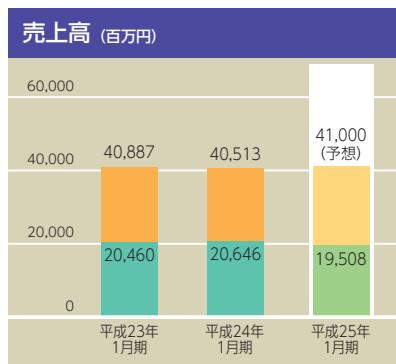


SecurePrint! 営業チーム

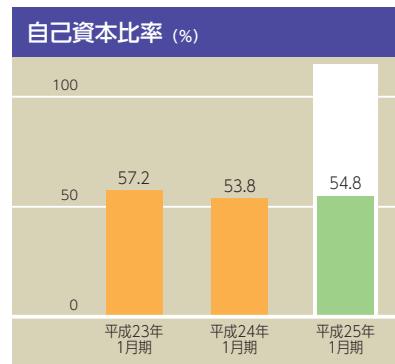
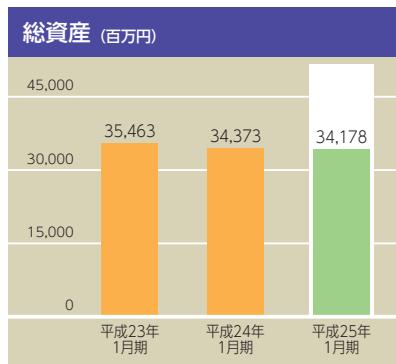
決算のポイント

- 主要顧客の内製化進行やソリューション製品の販売が伸び悩み、売上高は1,138百万円の減となりました。
- 構造改革の推進および不採算事業の鎮静化により利益が大幅に改善し、四半期純利益は511百万円(前年同期は△295百万円)となりました。

■ 第2四半期累計 ■ 通期



■ 第2四半期累計 ■ 通期



プロベック事業

第三者による検証、認証、評価等の
品質マネジメントに関連するサービス

プロベック事業におきましては、スマートフォン検証分野を中心に新規顧客の開拓に取り組んでまいりましたが、携帯電話国内メーカーの経営環境の悪化に伴う受注減少により、売上高は20億7千6百万円、前年同期比1千9百万円（0.9%）の減となりました。また、中国市場の営業活動強化に伴う販管費増大により営業利益は1億1千9百万円となり、前年同期比3千万円の減となりました。

売上高構成比



営業利益(百万円)

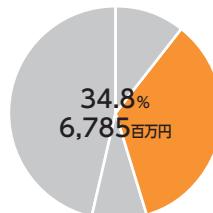


プロフェッショナル事業

IT基盤の構築、運用、保守等の
ライフサイクルマネジメントに関連するサービス

プロフェッショナル事業におきましては、オンラインストレージサービス「Webhard™」の提供を開始するなど、クラウド事業に注力してまいりましたが、基盤開発分野における主要顧客の内製化進行に加え、前期の大口スポット受注の影響もあり、売上高は67億8千5百万円、前年同期比11億4千9百万円（14.5%）の減となりました。利益面につきましては、経費削減およびグループ会社の利益伸長により、営業利益は2億1千7百万円となり、前年同期比1千1百万円の減に抑えることができました。

売上高構成比



営業利益(百万円)

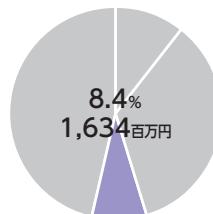


プロセス事業

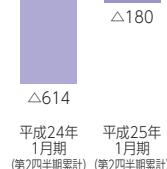
医療、生産物流、環境等、特定分野に
専門特化したソリューションを提供するサービス

プロセス事業におきましては、自社開発製品である認証印刷ソリューション「SmartSESAME® SecurePrint!」シリーズの販売が好調でしたが、他の自社開発製品の販売数が伸び悩み、売上高は16億3千4百万円、前年同期比1億6千9百万円（9.4%）の減となりました。利益面につきましては、前期の大型不採算案件が鎮静化したことにより、営業損失を1億8千万円（前年同期は6億1千4百万円の損失）に止めることができました。

売上高構成比



営業利益(百万円)

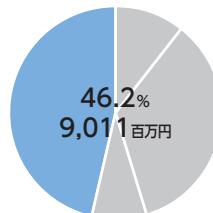


プログレス事業

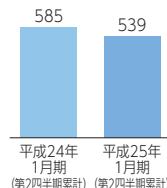
業務ノウハウ、高度技術を核とした
ソフトウェア開発サービス

プログレス事業におきましては、主要顧客である電気機器製造業・情報大手企業の経営環境悪化に伴う受注減が見られたものの、輸送用機器製造業・通信業等既存顧客の深耕・拡大を図るとともに、新規顧客の開拓を積極的に行いました。その結果、売上高は90億1千1百万円、前年同期比2億円（2.3%）の増となりましたが、前述の通り、内製化の進行、さらなるコストダウン要求により、営業利益は5億3千9百万円となり、前年同期比4千5百万円の減となりました。

売上高構成比



営業利益(百万円)



第2四半期連結貸借対照表の概要 (百万円)



平成24年1月期



平成25年1月期 (第2四半期累計)

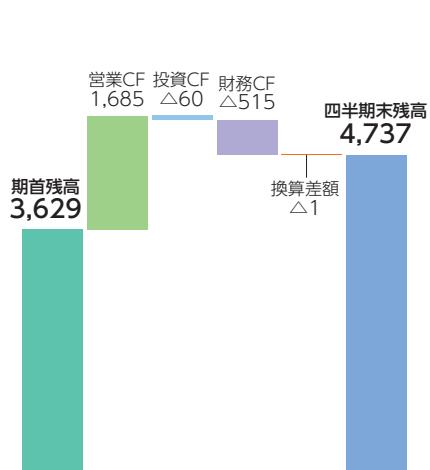
POINT 1 負債

有利子負債比率が2.8%低下し、37.5%となりました。

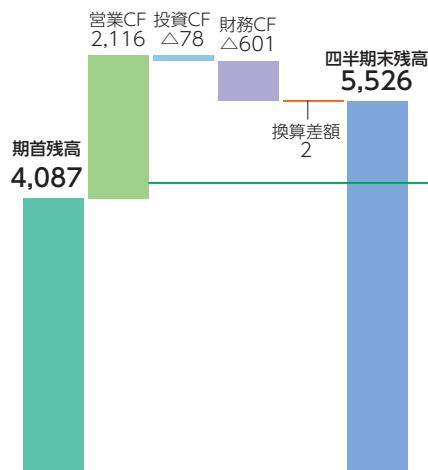
POINT 2 純資産

利益剰余金が337百万円増となりました。

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (百万円)



平成24年1月期 (第2四半期累計)



平成25年1月期 (第2四半期累計)

POINT 3 営業CF

売上債権の減少1,234百万円が貢献し、営業CFが2,116百万円となりました。

詳細な財務情報は当社ホームページで公開している決算短信でご覧いただけます。

■ 会社の概要

商号 株式会社 **シーイーシー**

Computer Engineering & Consulting, Ltd.

設立 昭和43年2月24日

資本金 65億8千6百万円

従業員数 2,539名 (連結) / 1,757名 (単体)

主なグループ会社

社名	資本金 (百万円)	出資比率 (%)	事業内容
連結対象子会社			
フォーサイトシステム株式会社	250	83.2	ソフトウェア開発
シーイーシークロスメディア株式会社	100	100.0	ネットビジネス事業
株式会社イーセクター	100	100.0	パッケージ販売
西テレ情報サイエンス株式会社	90	75.0	ソフトウェア開発
株式会社シーイーシーカスタマーサービス	50	100.0	ITサービス事業
大分シーイーシー株式会社	30	100.0	ソフトウェア開発
株式会社宮崎太陽農園	10	49.0	ITを活用した農畜産物の生産・販売
シーイーシー(杭州)科技有限公司	120	91.7	ソフトウェア開発
持分法適用会社			
コニカミノルタビズコム株式会社	300	34.0	情報機器に関連したITソリューションサービス

役員および執行役員

役員

代表取締役会長	岩崎 宏達
代表取締役社長	柏木 茂
常務取締役 (常務執行役員)	橋村 清海
常務取締役 (常務執行役員)	田原 富士夫
常務取締役 (常務執行役員)	長田 一裕
取締役 (執行役員)	千葉 信和
取締役相談役	新野 和幸
常勤監査役	小田 恭裕
監査役	長濱 毅
監査役	中山 眞

執行役員

執行役員	木根 博治
執行役員	片山 仁
執行役員	服部 豊
執行役員	長谷川 浩三
執行役員	河野 十四郎
執行役員	刀根 利光
執行役員	立石 博
執行役員	大石 仁史

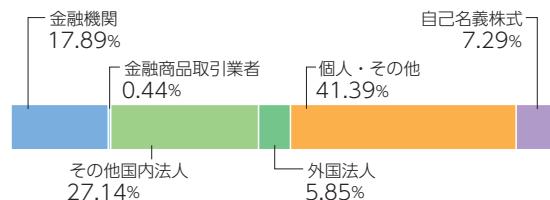
■ 株式の状況

発行可能株式総数 40,000,000株

発行済株式総数 18,800,000株

株主数 4,629名

所有者別株式分布状況



大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
1 ミツイワ株式会社	2,223,600	12.76
2 富士通株式会社	1,680,000	9.64
3 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,143,300	6.56
4 シーイーシー従業員持株会	988,900	5.67
5 岩崎宏達	563,200	3.23
6 日本フォーサイト電子株式会社	465,480	2.67
7 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	317,500	1.82
8 日本生命保険相互会社	266,800	1.53
9 CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	206,100	1.18
10 株式会社三菱東京UFJ銀行	202,000	1.15

(注) 持株比率は、自己株式 (1,370,702株) を控除して計算しております。

当社ホームページのご案内

当社ホームページでは投資家の皆様のお役に立つさまざまな情報を公開しています。



▶ シーイーシーホームページ
<http://www.cec-ltd.co.jp/>

CEC

検索



▶ IR情報

<http://www.cec-ltd.co.jp/ir/>

決算短信や有価証券報告書、決算説明会資料などはIR情報ページでご覧いただけます。

株主メモ

事業年度 2月1日～翌年1月31日

期末配当金
受領株主確定日 1月31日

中間配当金
受領株主確定日 7月31日

定時株主総会 毎年4月

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社

同連絡先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
TEL 0120-782-031 (通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部 (証券コード9692)

公告方法 電子公告 公告掲載URL <http://www.cec-ltd.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本店でお支払いいたします。



〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南一丁目5番5号 JR恵比寿ビル
TEL.03-5789-2441 (代表)

記載の会社名および商品名等は、一般に各社の商標、または登録商標です。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

